



で遊ぶときに 大切にしてほしいこと

人権課題の解決には、互いを知りあうコミュニケーション力が必要です。ここでは、遊びの中で、自分を表現し、友だちの話を聴くというコミュニケーションの楽しさを体感すると同時に、多様な考え方や生き方があることを実感し、互いを尊重する気持ちを育むことをねらいとします。

それぞれのコマの趣旨を理解し、「へえ〜」「がんばっているね」「そうなんだ」など積極的にうなずきなどの受容のサインや声掛けをし、楽しい雰囲気を作りましょう。

〈コマの意味〉

自分を知ってもらおう

- 好きな色や食べものは何？
- 声を出して笑ってみよう
- 家の中の仕事で得意なことは？
- これからやってみたいことは？
- 一番好きな場所は？
- 「あなたはやさしいね」とほめられたら、なんて返事する？

中には、自己表現が苦手な子どももいます。可能な範囲で話してよいことや、話せないときは「パス」をしてもいいことを説明して、子どものペースで、自分の良さに気づき、ありのままの自分でよいのだという、自分に対する自信（“自尊感情”）を育てられるように寄り添いましょう。

みんなと交流する

- みんなは拍手〜
- 右どなりの人とジャンケンして、負けたら1コマ進む
- 左どなりの人をほめよう！左どなりの方はどんな気持ちになった？
- みんなでしりとりを3つする。
ねやがわ⇒○⇒○⇒○
- グループのみんなと握手をしよう
- 用事がある時に「遊ぼう」と誘われた。相手を傷つけない方法は？*

すごろくという集団遊びを通して、他者とのふれあいの楽しさや、互いを思いやる気持ち、コミュニケーションの方法をみつけられるように声かけなどをしましょう。

そのためには、誰かが話しているときは、その人を見ながら最後までしっかり聴くように心がけることが大切です。

※「今日は別の用事があって遊べないの。でも、明日なら遊べると思う」と、ていねいに、しかしはっきりと説明する、など。

人権に関する事柄について考える

- お年寄りや障害のある人が困っている時、できることはどんなこと？
- ケータイやスマホは色々便利な使い方ができます。どんなことができると思う？

お年寄りや障害のある人は、いつも助けられる側の人ではなく、人の役になったり、助けたりすることはたくさんあります。それを理解した上で、どんなことで困っているのかを想像すること、そして、「何かお手伝いしましょうか？」と話しかけることがスタートです。

耳の不自由な人は携帯電話のメールで連絡を取り合い、弱視の人はズームや白黒反転の機能を、目の不自由な人は、音声読み上げソフトで文字を読み上げてもらい、メールの送受信ができます。また、認知症などのお年寄りや子どもが持つことで、居場所を確認することができます。